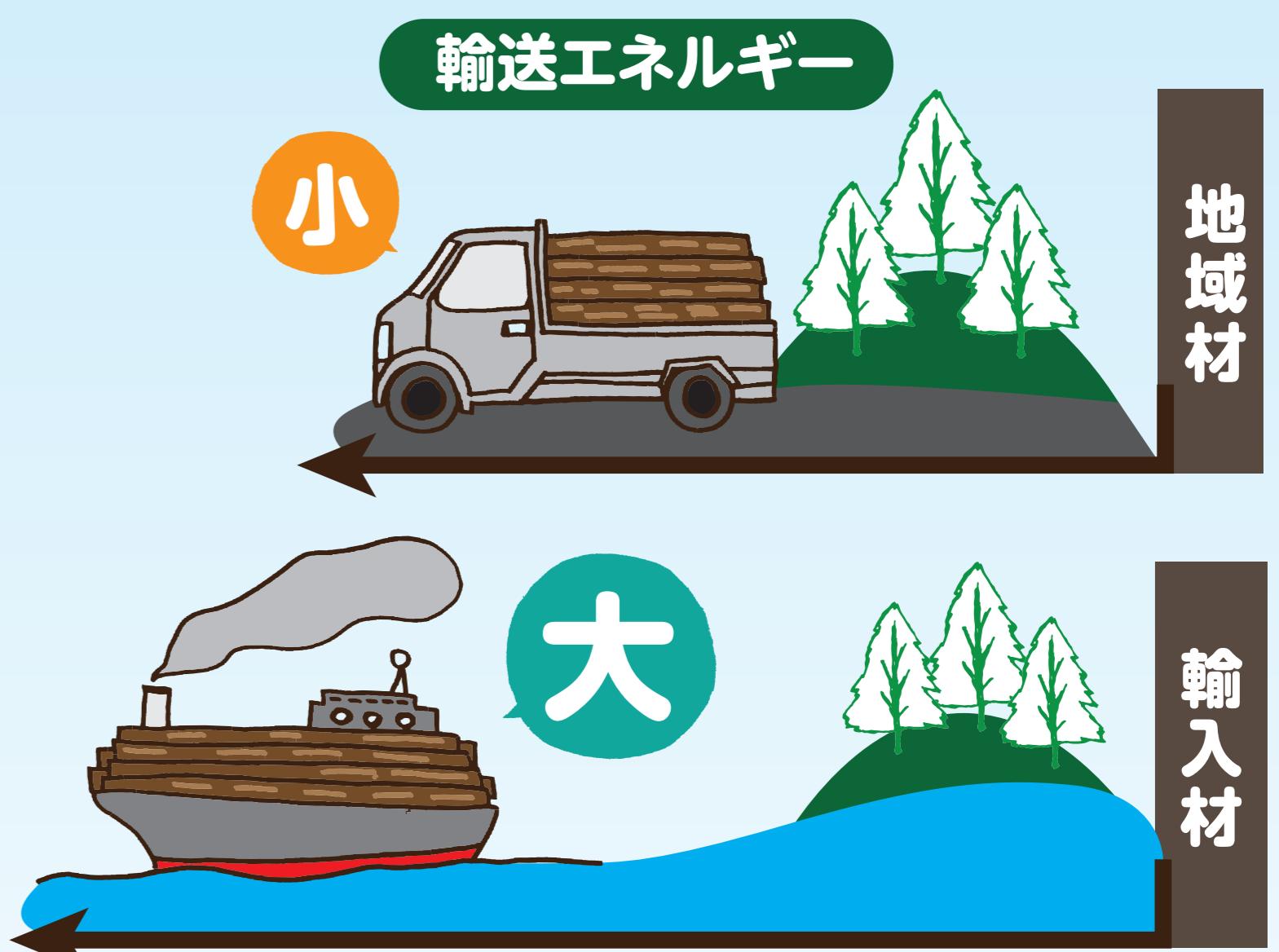


「地域材」ってなんだろう?

私たちが暮らしている地域で生産された
「地域産木材」のことを「地域材」と言います。

地域で生産したものを、その地域で消費する「地産地消」は、野菜などの食べ物でよく耳にしますが、林業でも「地産地消」はとても大切なことです。地域の木材を地域で使うことは、地域の森や山を守り、森林・林業を活性化することになりますし、木材の輸送距離が短くなることで、その分輸送にかかる二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすことにもつながります。

木材の輸送エネルギーを、輸送の過程で排出するCO₂の量で表したものを「ウッドマイレージCO₂」と言います。大型タンカーなどで海外から運ばれてくる外材に比べて、地域材はウッドマイレージCO₂を大幅に削減することができ、環境にやさしい木材と言えるでしょう。埼玉県には、秩父地域の「秩父材」や、県南西部(西川林業地)の「西川材」などの地域材があり、様々な建築物等に使用されています。



私たちのまちでは、どんな建物に「地域材」が使われているの?

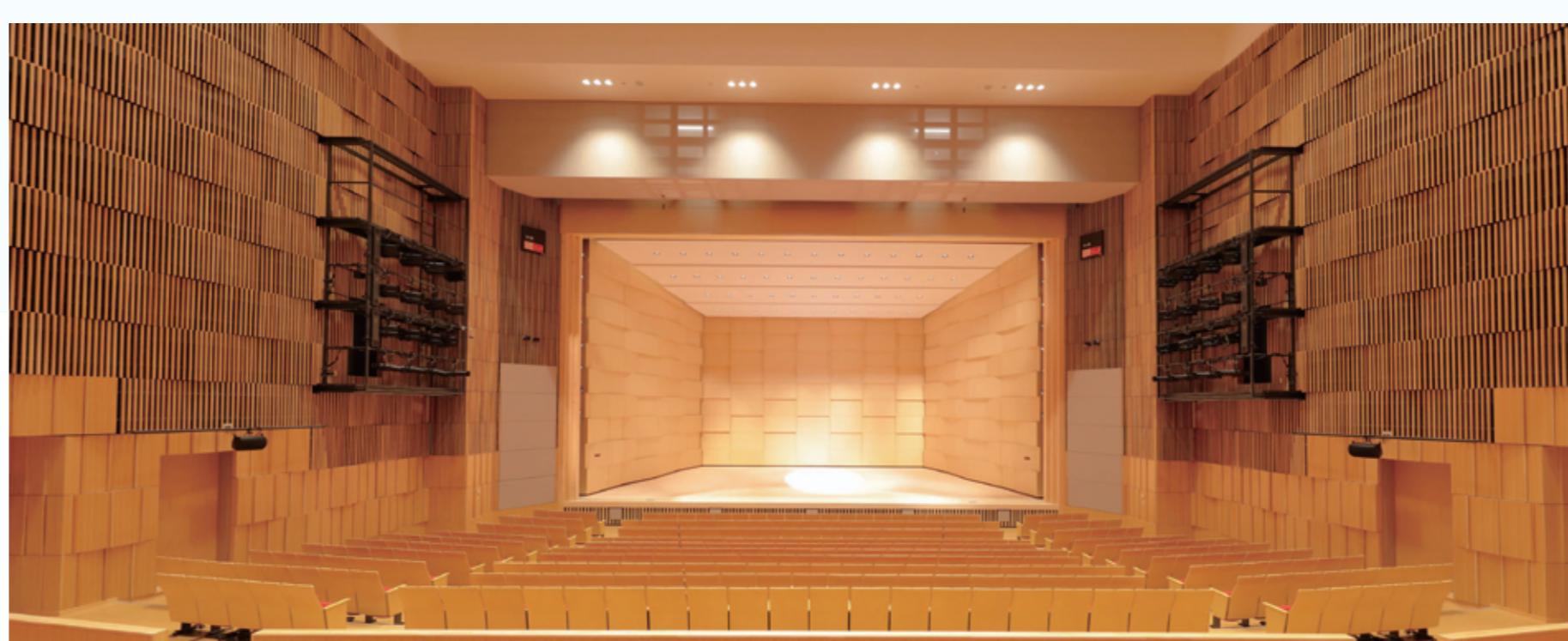
埼玉県、そして秩父地域の各市・町では、公共施設等へ積極的に地域材を使い、林業、木材業振興のために広く木の良さをPRする取り組みを行っています。

秩父地域内で秩父材を使って建てられた木造建築物、木質化工事を行った建築物の例



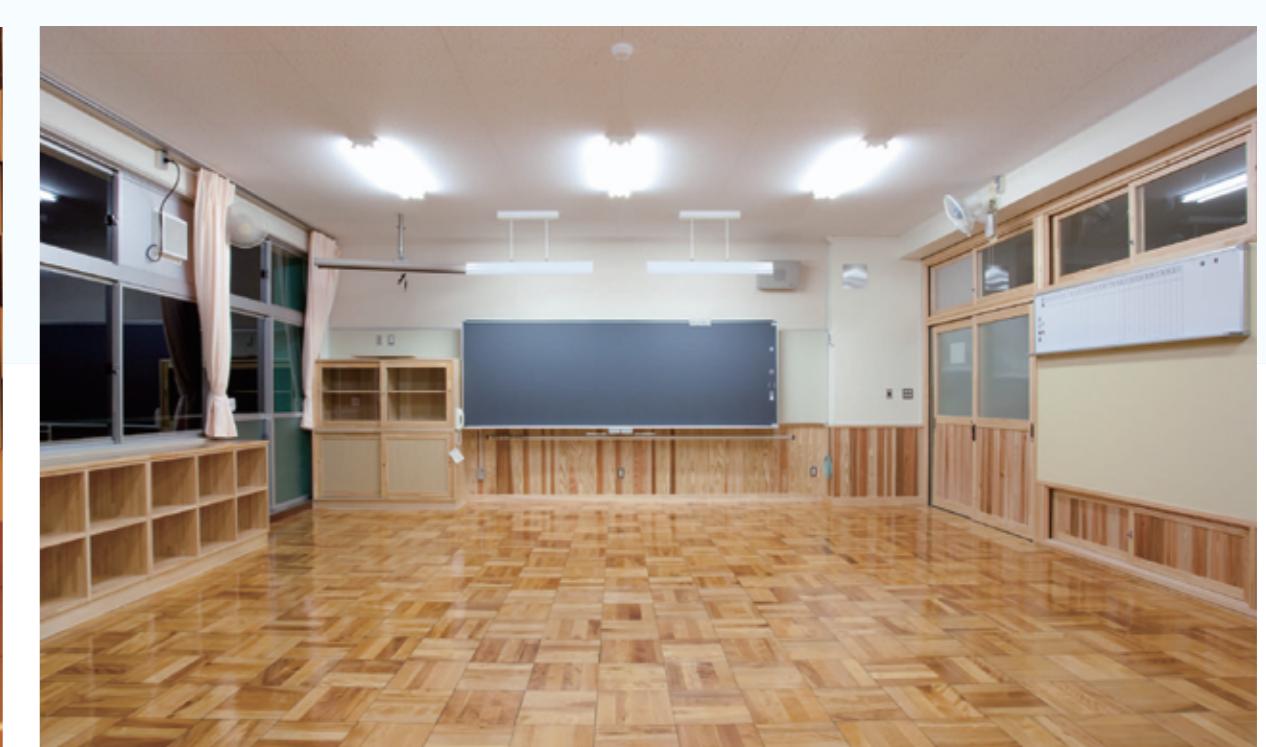
▲秩父消防本部西分署 (平成27年2月竣工)

事務所棟は秩父材を使用した木造2階建てで、主要構造部の柱および梁は集成材によるドリフトピン工法により、耐震性の高い構造となっています。(小鹿野町)



▲秩父宮記念市民会館「大ホール フォレスタ」(平成29年3月竣工)

オペラ、バレエ、コンサートなど幅広い演目に対応した多目的ホール。上質の無垢板を使用した「ヒノキ舞台」や壁面などに秩父材がふんだんに使用されている。また、同時に竣工した秩父市役所本庁舎においても、エントランスや腰壁などに秩父材が使用されている。(秩父市)



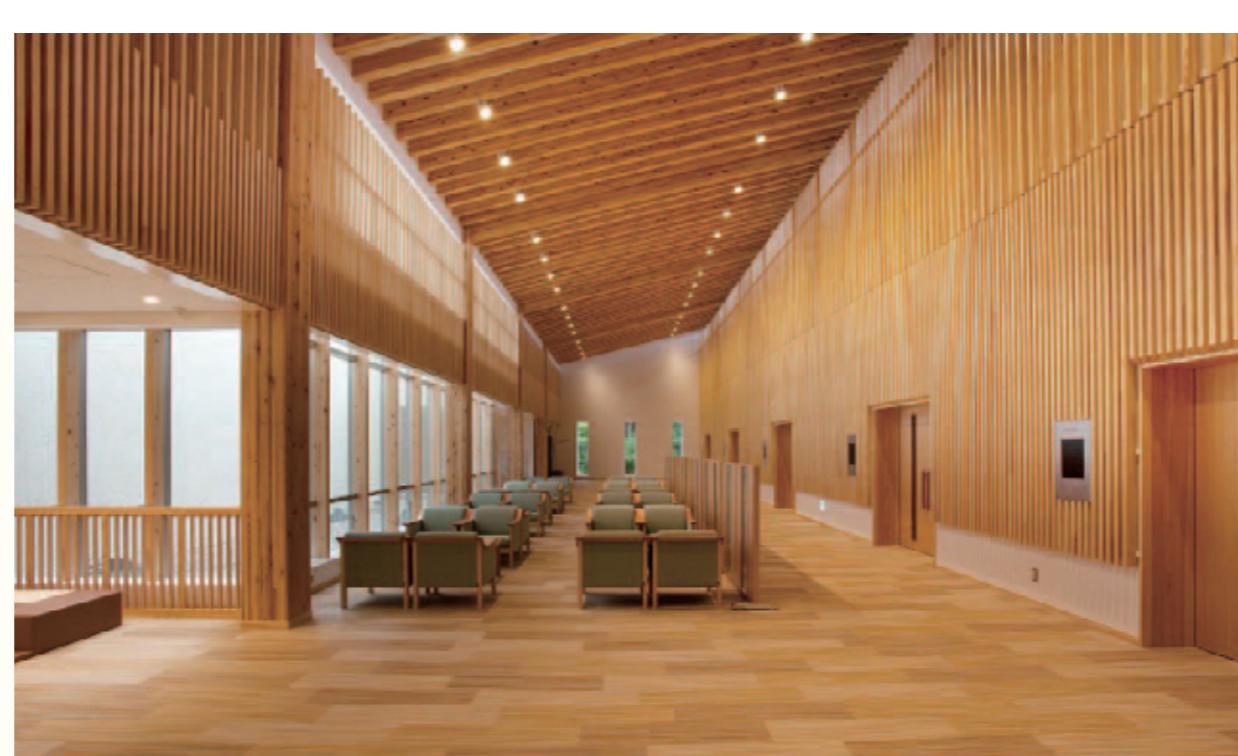
▲秩父市立吉田小学校校舎

(平成26年大規模改修工事に伴う内装木質化)
教室や廊下の腰壁などに秩父材を使用。(秩父市)



▲ちちぶキッズパーク休憩舎 (平成23年度完成)

秩父材のスギやヒノキをふんだんに使った建物となっており、木のぬくもりが感じられる。(秩父市)



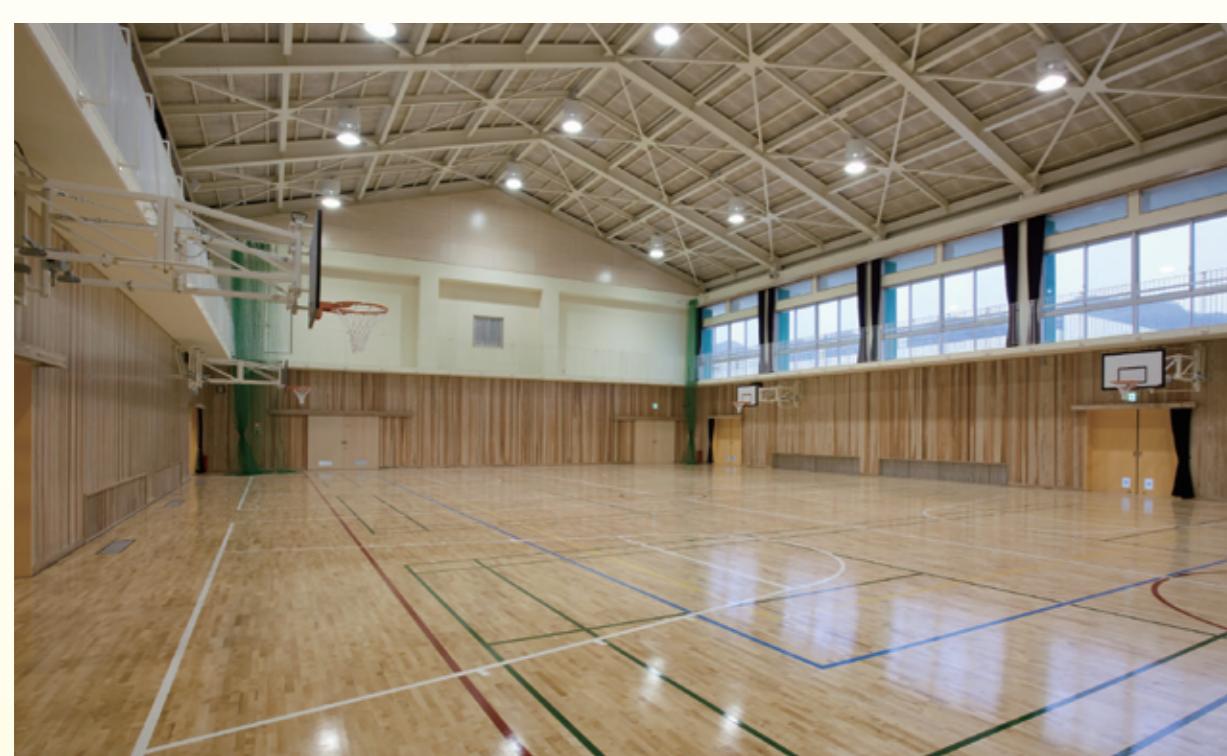
▲秩父斎場 (平成28年度完成)

待合棟は、秩父地域産のスギ集成材を使用した木造となっており、繊細な格子と太い柱、壁板など、目や手に触れる部分にスギがふんだんに使われ、心安らぐ空間に仕上がっています。(秩父市)



▲本町交流会館 (平成23年度完成)

木造軸組み工法2階建ての施設。日本の伝統的な在来工法の構造に木を多用した内装が良くなじみ、落ち着いた趣ある建物となっている。(秩父市)



▲秩父市立大田小学校体育館

(平成26年度改築工事に伴う内装木質化)(秩父市)
アリーナ内部の腰壁や廊下の腰壁、外壁の一部などに秩父材を使用。



▲埼玉県立秩父高等学校図書館 (平成19年度完成)

学校創立100周年事業にて新築。秩父材をふんだんに使った木造3階建て構造。屋根に煙り出しを備えた秩父の伝統的な養蚕農家を模している。一般開放日あり。(秩父市)



▲秩父広域森林組合 (平成24年度完成)

木造2階建ての事務所棟。構造材、内装材のほとんどに無垢の秩父材を使い、森林組合にふさわしい木の香りに包まれた建物となっている。(秩父市)



▲三峰駐車場観光トイレ (平成27年7月竣工)

外壁などに秩父材を使用。(秩父市)



▲道の駅果樹公園あしがくぼ各施設

農産物加工場、振興交流施設、多目的休憩施設の3施設。古き良きトラス構造、存在感のある磨き丸太の柱など、随所に木の良さを見せるデザインとなっている。(横瀬町) (平成14~16年度完成)



▲荒川図書館 (平成15年度完成)

埼玉県産木材および秩父材を多用した木造平屋造り。建物の構造材、内装材はもとより机、イス、本棚などにも木材を使用し、温かみのある建物となっている。(秩父市)



▲秩父市営馬場 (平成26年度完成)

羊山公園・芝桜の丘そばの「ふれあい牧場」に隣接した市営の馬場。木造2階建ての管理棟のテラスからの「武甲山」眺望も素晴らしい。(秩父市)

